

# 令和3年度学校評価について

令和3年4月24日

本年度の重点目標		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 個に応じた指導の工夫・改善及び授業力の向上</li> <li>2 自立と社会参加を促す教育活動の推進</li> <li>3 「笑顔」のある安心・安全な学校づくり</li> <li>4 関係機関や保護者等との連携による教育活動の推進</li> <li>5 センターの機能の充実</li> <li>6 仕事の効率化、勤務時間の適正化を図る</li> </ol>		
項目	重点目標	具体的方策	留意事項	
小学部	学ぶ楽しさや他者と関わることの楽しさを感じながら、主体的に活動に取り組む児童を育てます。	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 児童が安心して活動に取り組めるよう、保護者や関係機関と連携して支援します。</li> <li>2 学習のねらいに応じて、学年や学ぶ場の異なる友達と、ともに学べる場を設けます。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 病気の状態や前籍校での学習状況に応じた適切な支援ができるよう、保護者、病院、前籍校との連携、教師間の共通理解を図ります。</li> <li>2 同時双方向型通信や学習支援ソフトなどを活用し、本校とベッドサイド学級、施設内学級の児童が、直接的・間接的に対話できる場を設定します。</li> </ol>	
中学部	基礎的・基本的な学力の習得を確実にを行うとともに、集団で活動する中で、自らの課題に気付き、個性の伸長を図り、他者とよりよい人間関係を築く力を養います。	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 生徒の学習状況を適切に把握し、学習集団を工夫するなど、きめ細やかな指導を行います。</li> <li>2 ICT機器を活用し、校内教育、BS学級、施設内教育学級で同時双方向型通信を使った授業を行い、集団で学び合う環境づくりをします。</li> <li>3 集団活動の中で、対話的、協働的な活動を設け、自分の意見を発表したり合意形成したりする経験を、多くの生徒ができるよう支援します。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 家庭、医療機関、前籍校との連携、情報共有を図ることで、実態把握に努めます。</li> <li>2 生徒の願いや目標、支援内容や方法など、教師間での共通理解を図ります。</li> <li>3 同時双方向型通信での授業がスムーズにできるよう教師間での連携を図ります。</li> <li>4 集団学習の中で、他者と自分の考えの違いなどに気付き、自己理解に繋がるよう、生徒の気持ちに寄り添った支援に努めます。</li> </ol>	
高等部	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 各教育課程の指導内容及び指導方法について検証し、改善を進めます。</li> <li>2 自己実現を目指し、集団の一員として生きる力を身に付けます。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 生徒一人一人の実態を的確に把握し、高等部職員全体で取り組むべき課題という共通認識をもち、授業力の向上及び適切な指導が実施できるよう、研修に努めます。</li> <li>2 挨拶や言葉遣い、他の生徒への思いやりなどを、学校生活の中で、人との関わり方を学べるように支援・指導します。</li> <li>3 集団での活動場面において、生徒の実態に応じた役割分担を明確にし、他の生徒との協働により、達成感や成就感を味わえるように指導します。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 職員全員が生徒個々の実態を的確に把握し、幅広い視野、長期的な展望をもって適切な指導します。</li> <li>2 ICT機器を積極的に取り入れ、授業や各行事等で有効に活用することで、学習効果を高めます。</li> <li>3 生徒が自己の病気や心身の状況に応じて、学習に取り組むことができるよう支援します。</li> <li>4 生徒個々の短期的な目標や課題を、職員全員が理解し、学校生活全般を通じて、PDCAサイクルを図ります。</li> </ol>	
施設内教育	名大藤田中京	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 児童生徒が安心して学べるように、保護者及び医療機関等との連携を保ち、個に応じた指導の工夫と充実に努めます。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 ベッドサイド授業の実施や、短期入院の児童生徒の転入について速やかに対応します。</li> <li>2 情報収集については、病棟の理解と協力を得ながらすすめていきます。</li> </ol>	
訪問教育	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 児童生徒と心理的な安全性を構築し、一人一人の実態に応じた授業を実施します。</li> <li>2 病院等の関係機関との連携を密にし、児童生徒が安心して学べる環境作りに努めます。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 児童生徒の興味・関心や学習の状況、病状を的確に把握して授業を実施します。</li> <li>2 担当者間で、児童生徒の情報を共有し、児童生徒にあった目標・内容・方法を検討し支援をします。</li> <li>3 電話や病棟との連絡ノート等を活用し、病院等の関係機関との情報交換を積極的に行い、児童生徒にとって安心して活動できる環境作りに努めます。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 児童生徒の好きなことや得意なこと、強みに着目した支援に努めます。</li> <li>2 定期的に児童生徒の支援を検討する機会を設け、より良い支援を更新できるよう努めます。</li> <li>3 主治医等の病棟関係者とは、定期的に情報交換を行えるような仕組み作りを進めます。</li> </ol>	
総務部	開校50年を記念してマスコットキャラクターを作成し、学校を盛り上げます。	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 広く児童生徒がマスコットキャラクター作りに参加できるような計画を立てて、進めていきます。</li> <li>2 マスコットキャラクターに親しみがもてるよう、キャラクターを取り入れた記念グッズを作成します。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 本校、施設内教育、訪問教育と連携し、マスコットキャラクターの原案の募集や候補作への投票など、児童生徒が参加できる機会を作っていきます。</li> <li>2 文化祭でのお披露目を目標に、美術科と連携しながらキャラクターを取り入れた記念グッズを作成し、児童生徒へ配付します。</li> </ol>	
教務部	新学習指導要領に沿った、主体的・対話的で深い学びを目指し、授業の充実に努めます。	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 自ら学習に取り組む態度や自分の考えを分かりやすく伝える力を養うため、タブレット端末を積極的に活用します。</li> <li>2 新学習指導要領における3つの観点の指導方法や評価の仕方について工夫していきます。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 タブレット端末を有効に活用できるようにするため、部別研修会等を活用して研修を行います。</li> </ol>	
自立活動	児童生徒が自立を目指す上で必要な力は何かを教師とともに考え、主体的にその力を身に付けることができるよう支援します。	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 個別の指導計画を基に、個々の目標や活動内容が児童生徒の実態に適しているかを検討し、自己理解を深めたり、自己管理の力がついたりするような活動内容の工夫を行います。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 個別の指導計画を作成する上で、医療機関や保護者と連携して児童生徒の実態把握を丁寧に行います。</li> <li>2 活動の実施にあたっては、安心安全な環境設定に努めるとともに、ワークシート等を活用して、</li> </ol>	

			児童生徒が活動の成果を実感し、自信がもてるような支援に心掛けます。
生徒指導部	児童生徒一人一人を大切に、安心・安全に学校生活を送ることができるような学校づくりに努めます。	<ol style="list-style-type: none"> <li>外部講師による情報モラル教室を実施し、SNSの利便性と危険性に対する知識を高めていきます。</li> <li>児童生徒会活動やあいさつ週間、部活動等、児童生徒が主体的に取り組むことができる活動を工夫し、実践していきます。</li> <li>毎週、各部会で児童生徒の情報交換を行うとともに、年2回、児童生徒を対象とした「心のアンケート」を実施します。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>児童生徒の年齢や発達段階に合わせた内容を実施し、学校全体で情報モラル教育に取り組みます。</li> <li>コミュニティサイトやメール、アプリ等、児童生徒が使用する具体的な場面を想定し、正しく安全に利用する態度を身に付けられるようにします。</li> <li>児童生徒の主体性を尊重し、学校づくりに参加しようとする意欲を育て、自信をもって取り組むことができるような支援に努めます。</li> <li>いじめ不登校対策委員会の開催や日頃の職員間での情報共有により、いじめの早期発見に努めます。また、家庭や医療、地域との連携を図り、いじめの防止、早期対応に学校全体で当たります。</li> </ol>
保健体育部	教育環境の整備や安全指導を充実させ、児童生徒の健康管理を適正にし、安全で安定した学習ができるような環境作りと保健指導の充実に努めます。	<ol style="list-style-type: none"> <li>感染症対策をしっかりと行う中で、家庭や病棟と連携を取りながら、日常の健康と安全に対する意識を高めます。健康的な生活習慣や食習慣の重要性を周知していきます。</li> <li>医療的ケアや食物アレルギー対応の実施については、保護者や関係機関との連携を深める中で、児童生徒や教職員が、お互いに安心して学校生活を送ることができるように支援します。</li> <li>事故防止に努めるとともに、児童生徒個々に応じた緊急時の対応等の情報を職員に周知徹底し、共有しながら、より安心で安全な教育環境を整えます。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>全児童生徒に毎朝の健康観察を行うと共に、給食配膳時も健康観察を実施します。各種便りやメール配信を介して、児童生徒保護者への情報発信に努め、感染症対策の徹底や、衛生的な環境作りに努めます。また食習慣の重要性を周知していきます。</li> <li>安心・安全な対応ができるよう、委員会等で十分に審議し、その情報を共有し、保護者や関係機関との理解と協力を得ながら全校体制で行います。</li> <li>児童生徒の情報を職員で共有し、緊急時のスムーズな対応に備え、安全指導の徹底を図ります。</li> </ol>
進路指導部	児童生徒の実態と児童生徒・保護者のニーズを踏まえ、適切な進路決定に向け進路指導の充実に努めます。	<ol style="list-style-type: none"> <li>キャリア教育ノートの活用やキャリアパスポートの体系的な運用等、キャリア教育の充実を図ります。</li> <li>学年や教育形態に応じて説明会や懇談等を実施し、情報の提供や進路決定に向けた課題や支援方法について共通理解を図ります。</li> <li>希望する進路先・居住地関係機関との連携を図り、情報提供することで児童生徒への理解を深めていただくよう努めます。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>キャリア教育ノートの周知を図り、活用しやすいよう工夫します。他校でのキャリアパスポートの作成方法を調査し、運用に役立てます。</li> <li>連絡帳やアンケート等を利用し、保護者のニーズに合った情報を把握するようにします。ICTを活用し、わかりやすい説明や提示方法に心掛けます。</li> <li>積極的に進路先や関係機関と連絡を取り、広範囲に及ぶ居住地に対応できるよう心がけます。</li> </ol>
教育支援部	児童生徒の実態や一人一人の教育的ニーズに応じ、きめ細やかな支援を行うため、教職員研修の充実を図ります。各関係機関との情報の共有化、連携の充実を図り、病弱特別支援学校としてのセンター的機能の推進に努めます。	<ol style="list-style-type: none"> <li>「医教連携セミナー」に代わる「夏のセミナー」を計画、実施し、地域の教育関係者に公開して、医療、教育、地域との連携を深めます。</li> <li>セミナーや研修会の充実を図り、適切な支援につながる教職員の資質の向上を図ります。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>関係機関との連携や担当者との情報交換を密にし、地域に根ざした支援を提供します。</li> <li>セミナーや研修会については、在籍する児童生徒の支援に役立つよう、校内支援を進めます。</li> </ol>
教育情報部	GIGAスクール構想によるICTの環境整備を活用し、これまでの実践とICTの融合を図ることで、児童生徒、教師の力を最大限に引き出す取り組みを進めます。	<ol style="list-style-type: none"> <li>児童生徒一人一台タブレット端末を活用できるようにアプリケーションの精選をし、ハード面を整えます。</li> <li>各端末でネットワークを円滑に使用できるように設定します。</li> <li>対面とオンライン、さらにストリーミングを合わせたハイブリット化した協働的な学びを展開します。</li> <li>保護者と教師がICTでつながり、これからの情報社会を生きていく子供たちを見守りながら情報モラル教育の定着をはかります。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>授業での効果的なデジタルコンテンツの活用や施設内教育、訪問教育を結んだ同時双方向授業に最適化した通信環境の改善と維持に努めます。</li> <li>個人情報の取り扱いや安全に最大限に留意しながら、教育用クラウドの活用を進めることで学びにおける時間・距離などの制約を取り払い、学校と家庭での切れ目ない学習を保証します。</li> </ol>
学校関係者評価を実施する主な評価項目		<ol style="list-style-type: none"> <li>個に応じた指導の工夫・改善及び授業力の向上ができたか</li> <li>自立と社会参加を促す教育活動が推進できたか</li> <li>「笑顔」のある安全・安心な学校づくりができたか</li> <li>関係機関や保護者等との連携による教育活動が推進できたか</li> <li>センター的機能の充実ができたか</li> <li>仕事の効率化、勤務時間の適正化に努め、教職員のメンタルヘルスを保持することができたか</li> </ol>	